



コミュニティ・スクール通信 No.6

学校・家庭・地域が一体となって 未来の飛島を担う子を育てよう

令和6年12月12日 発行
飛島村教育委員会 CS事務局

11月29日（金）、今年度、3回目の学校運営協議会が開催されました。

1 令和6年度飛島学園学校運営協議会としての活動報告

4月から委員・関連団体の方々に支援をしていただいた活動について報告がありました。主な活動内容は、以下のとおりです。

- 朝の読み聞かせ（おはなしくらぶ）
 - ・ 前期課程生徒
- 出前授業（川崎重工・三菱重工・材惣木材）
 - ・ 4年生・5年生
- 飛島の防災を大人と語る会（学校運営協議会委員）
 - ・ 9年生 防災学習
- TOBI 探発表会（学校運営協議会委員）
 - ・ 9年生 防災学習
- 防災キャンプ（とびしま・ペアレンツ）
- 学園畑整備（とびしま・ペアレンツ）
- 伊勢湾台風を語り継ぐ会（地域関係者）
 - ・ 5・7年生
- 村探検（PTA）
 - ・ 2年生
- デジタル防災マップ作り（いきいきクラブ）
 - ・ 6年生
- 飛島音頭練習会（文化協会）
 - ・ 1・2年生
- 登校見守り（スクールガード・交通指導員）
 - ・ 全校生徒



【飛島音頭練習会】

2 あいさつ運動への取組

あいさつ運動への取組は、今年度の学校運営協議会の課題として重点項目なので、その進捗状況に関して、学園から「あいさつについてのアンケート調査」の結果をもとに、以下のような報告を受けました。

- ・学園や地域、家庭ではおおむね6割程度の生徒が自分から進んであいさつをしている。
- ・「飛島学園は、元気なあいさつが飛び交う学校だと思いますか」という問いには3割程度の生徒しか「とてもそう思う」と答えていない。しかし、8割以上の生徒が「あいさつは大切だ」と答えており、認識はあるものの、実践が伴っていない状態だということがわかった。
- ・「飛島学園は、元気なあいさつが飛び交う学校だ」と生徒が自信をもって言えることを目標にしていきたい。
- ・生徒の意見の中に「あいさつをしても返してくれない先生がいる」という声もあったので、教職員にもさらに呼びかけ、あいさつが当たり前に見える環境づくりをしていきたい。

委員の方からは、以下のようなご意見をいただきました。

- ・以前と比べると、よく声が出るようになったが、通学団や学年によって差がある。全体的にレベルを上げることが必要。
- ・公共施設で挨拶をしても大人でも返事が返ってこないことがある。大人が手本にならないといけない。
- ・朝のテンションが低い。朝から元気があるとよい。
- ・顔見知りになって慣れてくると、出来るようになる。

学園や委員の方の意見交流を通して、あいさつは年度当初に比べると、段々とよくなってきていることがわかりました。しかしながら、現状では、まだ十分ではないので、学園のあいさつ運動への取組を地域や家庭も応援していくことが必要であることを共有しました。そして、まずは、ご家庭から「おはようございます」、「行ってらっしゃい」など声かけをしていただきながら、大人が手本となるように今後も継続的に取り組んでいくことをお互いに確認しました。

3 学校運営協議会の取組

4月から学校運営協議会がスタートしました。昨年の準備委員会立ち上げからアドバイスをいただいている文部科学省 CSマイスター 愛知教育大学 教授 風岡 治様より、本日の会議の様子を直接見ていただき、ご助言をいただきました。

4月から始まったばかりの学校運営協議会、それぞれの団体の代表の方が笑顔で会議に臨み、意見を述べられていることがとても素晴らしい。この仕組みを活用して学校運営に地域の声を活かし、地域と一体となって特色ある学校づくりをしてほしい。



地域の皆様、ありがとうございました !!

第3回学校運営協議会が始まる前に6年生の代表生徒より、日頃から安全に登下校できるように見守ってくださっているスクールガードの方にこれから寒くなるので、防寒用に手袋を渡し、感謝の気持ちを表しました。

また、9年生からは、委員の方へTOBI探の防災学習でアドバイスをいただいたことへの報告として学習を通して学んだことをまとめた冊子を渡しました。



【スクールガードの見守り】



【TOBI探の防災学習】



【手袋を渡す6年生】



【冊子を渡す9年生】